

Var. *Levetii* Butl.

(六九) *Nایتモシ* *Zizera maha* Mén.

(七〇) *キントナシ* *Heteropterus unicolor* Brem.

(七一) *メナツ* *Adopaea leonina* Butl.

(七二) *メナツ* *Adopaea sylvanus* Esp.

(七三) *キキ* *Augiades sylvanus* Esp.

(七四) *キキ* *Augiades oclracea* Brem.

(七五) *キキ* *Augiades dara* koll.

(七六) *キキ* *Halpe varia* Murr.

(七七) *キキ* *Parnara pellucida* Murr.

(七八) *キキ* *Daimio theys* Mén.

(七九) *キキ* *Aeromachus inachus* Mén. (名稱は松村博士日本昆蟲總目録第一による) (未完)

◎青森縣に於ける萃樹の害蟲

陸奥 新渡戸稻雄

余は未だ世に發表するだけ充分の研究を積まねど、萃果は今や全國各地知名の都市の店頭を飾るに至り、甘酸其適を得たるの故を以て果實中の王として迎へられ、殊に本縣産を以て高評噴々たりとす。故に余は本縣の物産として、又唯一の輸出品として、遂には縣經濟を左右すべき此萃果なれば、其害蟲を研究せざるべからざるに至れり。是を志してより今や三年、六十七種の害蟲あるを發見し、又略ぼ其經過習性を知るを得、漸く是れが驅除の方針を定立するに至れり。故に是より卑見を述べて諸兄の注意を乞はんと欲す。

リンゴクロメタラガメ *Heteroordylus flavipes* Mats(asp.) (盲椿象科)

成蟲 体長一分乃至二分二厘、体幅二厘乃至三厘、大なる複眼と割合に大なる稜狀部とを有し、觸角は四節にして長さ四厘、脚は前中兩脚は七厘強、後脚九厘、翅は前翅長さ八厘あり、其約三分の二は角質に化し、他の一分は稍膜質なり。後翅は其の長さ七厘ありて、膜質透明に、口吻は三厘の長さを有し、境界稍明瞭ならざるも四節よりなり、頭部の形も雄は稍三角に近く、雌は雄より遙かに半圓形を爲すこ

と圖の如し、胸部は第一胸節分離して能く發達し、少しく回轉するを得、第二第三は腹部と相癒着し、腹部は雌は少しく環節不明瞭なるも八節よりなり、雄は判然せる七節よりなる而して其形狀雌はさながら浮塵子類に似、毛を有せざるも、雄にありては腹縁に毛を有し、且横斷面は圓を帯べる三角形なり、而して体色は雌と雄と少しく異なり、雌は漆黒色にして光澤あるも、雄にありては暗褐色にして光澤雌に及ばず、又脚は何れも淡黄にして褐色を帯ふ。

幼蟲 体長充分成長せるものは、九厘、体幅五厘に達し、脚を除く他は全体紫色を帯べる淡褐色にして光澤あり。而して孵化當時にありては其色鮮紅色にして、脚は黄白色なり。

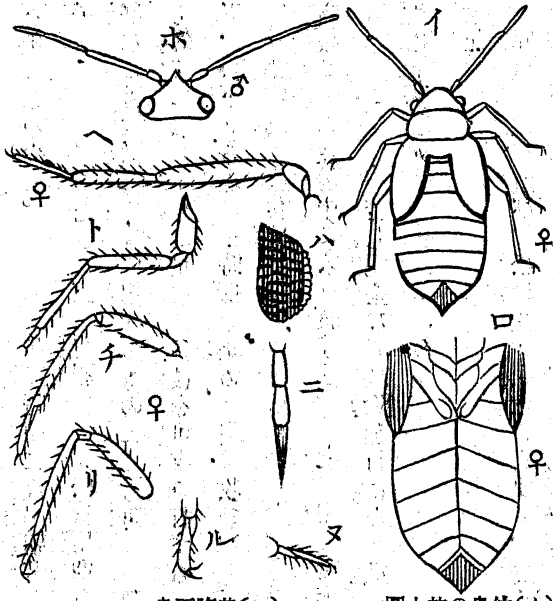
卵子 余は二ヶ年間飼養せるも、其産卵する所を認めず、彼産卵器より案するときは或は新身の皮下中に産するものなるか、椿象類にては皮下中に産卵するものありや否や諸兄に糺す。

習性 幼蟲成蟲共に脚能く發達し歩行敏捷なり、常に葉裏に宛ら浮塵子を追ふに均し。(横行せざるのみ) 若し是れを捕ふるときは一種厭ふべき惡臭を發す、其香劇烈にして、吸入すること多ければ眩暈を催すことあり。(椿象科のものは大に異なる又育椿象科のものにても此の蟲の如き臭を發するものは余未だ之れを知らず) 此臭氣は肛門よりする無色透明の液なり。成蟲は少しく飛翔して原に皈るの性あり。故に他樹に傳播すること遅々にして、往々或部分にのみ大繁殖をなす又密集せざるも互に相寄るの性あり。而して重に葉脈、幼果に口吻を挿入して養液を攝取す、又樹種によりて其嗜好を異にする如く、祝(クリューテル)に最も多く寄生し、園光(ハロースセネット)是に次ぎ、紅玉(シヨナサン)亦是れに次ぐ

が如く、他はさして其の害を認めず、又梨樹をも侵す。

經過 其年の氣候により大に左右せらるゝものにして、此調査は、明治三十六年溫泉地なる藏館に於

てせるものなり。殆ど本年なせるものより十日間斗々早きを見たり。四月下旬より五月上旬間に孵化し、六月六日より六月十四日迄に殆ど全部羽化せり。六月二十日頃より少しく減じ、二十六七日は著しく減じ七月



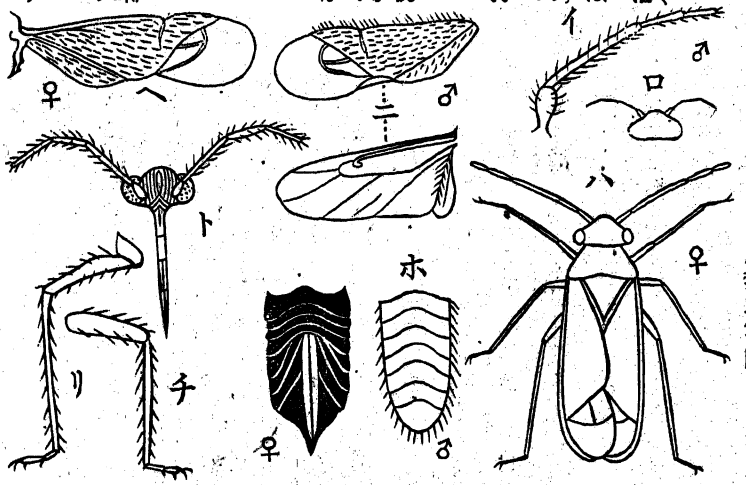
大放の蟲幼(イ) 複眼上部を眼(ク) 幼蟲の頭部(ハ) 雄の期に於ける(コ) 雌の期に於ける(ク) 附節の脚(チ) 同(リ) 同(ル) 其腹面(ロ) 口(エ) 同(ヘ) 同(リ) 同(チ) 同(ル) 見りよるたもの

二日には殆ど見ると能はざりき。其害状と損害 卵子は發芽より間もなく孵化するもの、如く、初めは嫩葉並に葉柄に口物を挿入して養液を吸収し、花期に至れば好んで花中に出入し、落花すれば幼果に集まり、稍々果皮硬韌となるときは又嫩葉裏に移轉す。而して該蟲は体の割合に吸収する量多きもの、如く、一葉に二三頭寄生するも其發育大に阻害せられ、四五頭に及ぶときは殆ど發育停止す。故に少しく發生多き樹の新芽は、皆伸長停止し各葉は收縮するに至り、該蟲減ずると共に又發育を始む。而して其一且該蟲の口物を挿入せられたる部分は組織破壊せられ、全く其部分發育する能はざるを以て、葉は爲めに縮葉病的に萎縮し、又果實にありては、一旦口物を挿入せられたる部分は、前同様不發育の點となるが故に、收果後も畸形物として販賣する能はず。

余が是れに對する驅除 燈火誘殺、効なく石油乳劑注射 効ありと雖も、葉の爲めに遺憾なく灌注す
 る能はざると、經費の點を奈何せん。然らば今余は打
 落法是れを薦めんのみ、乞ふ左の事項に注意せよ。
 一、時期幼蟲期に於てすべし(あまり幼小なる時は落
 下するもの少し。 二、成蟲時期には早朝若しくは
 曇日に於てすべし 三、受器は天笠白を用ゆると良
 好なるも、又夫れに代用するものにてても可 四、打
 ち落すには、手又は足にて各枝を可成急打すること。
 五、落下せる蟲は一時掃き集めて袋に收むべし。(受物
 なる風呂敷に咽喉付となすも可なり) 六、採蟲は可
 成袋と共に熱湯中に入れ殺すと。 七、總て動作は敏
 活なること。 若し完全なる驅除を行はんと欲せば、
 水化青酸瓦斯薰蒸を行ふにあり。

附記

余昨秋札幌に遊び、松村先生の元に寄寓し、農學校昆
 蟲實驗室に出入すると一ヶ月餘り、其間二回、該蟲に
 就て先生が調べられたるも其名を得ざりしが、今回調
 査の結果全く新稱なりとて其學名を付せられたり。又該蟲は本縣原産にあらすして、岩手縣より入れる



角觸の雅(イ)
 形の雄(ニ)
 形の雌(ハ)
 翅(ホ)
 腹部(カ)
 部頭の雌(ト)
 較比の節各脚中の雌(チ)
 較比の節各脚後同(リ)